

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203386		
法人名	社会福祉法人 郁青会		
事業所名	グループホーム サンバード茶屋町		
所在地	岡山県倉敷市早沖424-15		
自己評価作成日	令和5年 8月 29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の残存機能を把握し、出来る範囲で役割を持って生活して頂けるよう支援を行っている。立位が可能な方は台拭きや、食後の下膳と食器洗いをして頂き、立位保持が難しい方でもタオルたたみやお膳拭き等座位でも可能な作業をして頂いている。レクリエーションや体操等も声掛けは行うが強制はせず、利用者様がそれぞれ好きなこと、出来る事を行い生活ができるよう支援を行っている。新型コロナウイルス流行以降、しばらくご家族様との面会も制限を行っていたが、5類以降後から徐々に条件を緩和し、現在は感染対策を行いつつ事務所内での面会をして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療、看護、介護の連携が強く、体調に変化が見られた時の対応が迅速で安心できる体制が構築されています。入念に行うアセスメント(心身の状態把握)や、日々の生活の中での対話や観察をすることで、入居者の望むことや出来ることを無理なく行う活動が入居者の生きる意欲を高めています。長年勤務している職員が多く職場環境の良さが窺えます。職員の希望休日は特に制限を設けず、職員全員でお互い話し合い、支え合って勤務調整を行っています。また業務内容に偏りが感じられるときは、職員同士で話し合い業務改善をスムーズに行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果(こすもす)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングにて職員同士で情報共有と意識の統一をし、ケアの提供を行えるよう努めている。	職員の様々な事情に合わせて、働きやすいように職員間で話し合い、譲歩しあう職員文化が根付いています。それは、理念や法人の「郁青会」という名前を象徴しているような、意識の高さが窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	倉敷中央高校からの実習生や夏ボラの受け入れ、また茶屋町小学校の町探検の受け入れを行っている。	隣地にある小学校からの訪問や、中学生の夏休みボランティア、高校からの実習生などの受け入れをしています。また、地域の人が定期的に草刈りをしてくれるなどの協力もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	倉敷中央高校からの実習の受け入れを通し、人材育成への貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議を再開し、他事業所との意見交換の場として活用を行っている。	4月から会議を再開しています。法人内の他の事業所との意見交換や、ホームの状況や入居者の報告などを行っています。包括支援センターからの参加があり、その時々での情報を提供してもらっています。	今後は、地域の人や民生委員などへ参加者の幅も広げ、地域の中で認知症についての理解を深めて行くことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催の際には、地域包括支援センターの職員の方にも参加して頂くことで現状報告を行い、情報提供をして頂いている。	地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加された時に、情報提供をしてもらっています。また、認知症カフェの開催、運営についても助言をもらう等協力体制を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠をしているが、外に出たいと訴えがあれば職員と一緒に出るようにし、行動の抑制は行わずに気分転換を図っている。	ホームの外に出ると用水路が多いので、安全を考慮して玄関には施錠しています。ユニットとユニットの間には、太陽光が降り注ぐデッキがあって自由に出入りできます。また、制止の言葉は使わないように徹底しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	顕在化しやすい身体的な虐待のみではなく、言葉での心理的虐待も行わない様ミーティングで話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての勉強会は実施しては いないが、制度を利用している方の後見人 については職員にも周知し、連携を取って 支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項を理解していただい た上での契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	わかりやすい場所へ意見箱を設置してい る。また連絡時には要望の有無の確認も行 い、その都度対応を行っている。	事業所内には意見を言いやすい雰囲気がありま す。家族から要望などがあれば直に言うてくれる ので、家族との信頼関係は取れている様子が窺 えます。以前、入居者の希望で事業所内で回転ず し屋さんを開いたことがあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて各職員の意見・提案 を聞き、支援内容や業務内容、また運営等 の改善の場としており、その内容を随時管 理者から本部へと伝え連携を取っている。	月1回のミーティングの前には、あらかじめ各職員 が意見や要望などを提出し、業務改善に繋げてい ます。様々な職員個々の事情があっても仕事が続 けられるように、休みの希望回数は決めないなど の配慮がされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	人事考課表や自己評価表を用いて行ってい る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	職員の希望があれば外部研修への参加を 促し、勤務等の調整をし参加しやすい環境 づくりを行う。研修内容は報告書の作成を依 頼し、他の職員へのフィードバックを行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	管理者の他のグループホームの運営推進 会議への参加や、自施設の運営推進会議 への参加をして頂き、意見交換の場として 活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には担当ケアマネージャー、フェイスシートからの情報、事前面談を行いニーズの把握に努めたうえで関係の構築に勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様にホームの見学をして頂き、雰囲気や環境を理解して頂いた上で、要望・不安に対しどのような対応ができるかの話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に可能であれば入居希望者やご家族様にホームの見学をして頂き、ホームでの生活を行う上での必要とされる支援について対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や生活等のあらゆる場面で、入居者様それぞれが出来ることをして頂けるようお願いをしたり、一緒に行ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行し入居者様の近況報告を行い、面会時等でも報告や相談を行うことで、支援体制・協力関係の構築を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会条件を緩和して以降、面会に来てくださるご家族様が増え、入居者様の良い刺激になっているように感じる。	面会制限が緩和されて、家族と外出や外泊をされる方もいます。地元の小学校や中学、高校生との交流は続いています。認知症カフェは、入居者の参加も目的としているので、今後は参加出来ることを楽しみにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る範囲で工作等の作業などを一緒にして頂く場を設けられるよう支援を行っている。不満を言われる入居者様に対しては傾聴を行い、思いを受け入れる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所や、長期入院で退居された入居者様に対してもそれぞれの担当者と連携を取り、可能な範囲での支援や相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半期に一度アセスメントを行い、本人の意向確認を各担当者が行っている。また普段の生活の様子からも、思うを汲むようにしている。	利用者個々の好きなことやできることを把握して、生活の中で支援しています。定期的に行っている習字クラブでは、持ち前の腕を発揮しています。ソワソワして落ち着かないときは、その都度個々に安心できる対応に努めています。	今よりも、一層入居者の安心につながる支援に努めることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な入居者様がおられ、生活歴を話してくださる方も、話そうとされない方もおられる。その際はご家族様や前サービス担当者等からの情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録記入の際は本人の発言も記述するように努めている。体調に変化がある際は特記事項に記し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直し前には入居者様へのアセスメントや、ご家族様への意向確認を行い、ミーティング時に職員とも必要な支援を話し合った上でプラン見直しを行っている。	入念なアセスメントが定期的に行われています。家族からの希望や意見なども確認しており、職員の意見や、観察から得たことなども、あらかじめ情報収集して介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重要な情報が分かりやすく共有できるような個別記録の記入方法にしている。改善が必要な項目があればケアプランへの反映も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の現状をご家族様へお伝えし、病院受診・入退院等協力して頂けることはお願いをしているが、必要に応じ職員も支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターが主体となって行っている認知症カフェへの管理者の参加、また今後入居者様の参加も可能になるよう話を進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時に日常生活状況の報告と相談を行っている。体調に特変がある際は随時電話報告をし指示を仰いでいる。	かかりつけ医の往診や訪問看護のおかげで、安心な医療体制があります。利用者に異常があった際の対応の早さに、家族も安心している様子が窺えます。また、皮膚科の往診があり、皮膚トラブルの悪化防止が出来て喜ばれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり、体調の報告とチェックをし、職員と情報共有を図り医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活の様子や既往歴等を記載したフェイスシートを持参している。入院中も担当者とともに連絡を取り、退院へ向けての情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の対応についても説明説明を行っている。実際に主治医より看取りについての宣告があったご家族様へ対しては希望を聞きながら同意書を作成し、主治医・ご家族様・職員が共通の認識で最期のケアを行えるように話し合いを行う。	入居時に、重度化した場合についての対応や方針について、家族に説明し話し合いをしています。終末期には、主治医立会いのもと、家族や職員が共通の認識でチームとして支援を行うようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職者がいる際はマニュアルに沿っての対応の指導を行っている。また法人での研修も開催されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回職員と入居者様とで火災時、水害時の避難訓練を行っている。以前は消防署と連携し訓練の総評や消火器の使用方の講座をしてもらっていたが、新型コロナウイルス流行後は実施できていない。	年に二回、火災や水害等の災害対策としての訓練を行っています。事業所のある地域には特にハザードマップは想定されていないが、用水路もたくさんある地域なので、不安を感じるときは近隣の小学校に避難するようになっています。	今後も新たな災害対策に取り組み、地域での取り決めや、地域の中での連携についても進めて行くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時は個別浴を実施し、脱衣・着衣の際は他の入居者様が入らない様配慮している。トイレを迷われる方には貼り紙やさりない誘導を行う。	利用者への声掛けには、大声や行動制限などをしないようにしています。訪問時も職員は穏やかな表情で接していました。食事や排泄の誘導などの際にもさりげない声掛けや態度が見受けられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメント時に本人の思いや希望等を聞き取り、プランへ反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事や生活等のあらゆる場面で、入居者様それぞれが出来ることを本人の意思に添ってして頂いている。レクリエーション等も無理強いせずにして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪を依頼し実施している。服装は自己決定できる方はお任せし厚着・薄着になりすぎないように声掛けを行う。不足している衣類はご家族様に依頼したり、職員が購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は配食サービスを利用し、月に数回の職員が調理を行う日がある。アレルギー対応や入居者様の嚥下機能に合わせた食事形態での提供も行っている。	通常は配食サービスを利用しています。入居者の好きなお刺身の日があり、その日には職員が食事を手作りします。また、誕生日には食べたい物を聞いて、好きなものが食べられるようにしています。外食も今後再開していく予定です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて食事や水分量の把握をしている。進みが悪い際には摂取の声掛けを行ったり、自己にて摂取が困難な方へは介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が声掛けや介助を行い、確実にして頂けるように清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し声掛けにてトイレ誘導を行っている。パット確認や交換は声掛けをし了解を得てからプライバシーに配慮し行っている。	パットやオシメ類は体調や時間、尿量などをみて、サンプルで試すなどをして決めています。誘導の際にも、プライバシーには十分配慮して行っています。遠くから大声で呼びかけないなどを決めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は毎日把握をしており、便秘傾向の方へは牛乳やスポーツドリンクの提供、体操の声掛けを行っている。主治医と相談し本人の負担にならない様便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番なるべく固定せず不公平の無いように行っている。	入居者には入浴の順番にこだわりがある人もいますので、希望を聞いて気持ちよく入れるようにしています。体調変化や体力低下などがあれば清拭をするなど、個々に合わせた対応をしています。脱衣室や浴室の温度管理にも留意しています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間の確保できるよう、なるべく日中に活動できるように支援を行っている。不眠の訴えがある際は思いを傾聴し、安心して頂けるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については用法・効果・副作用等職員で周知し、確実な服薬支援を行っている。また服薬内容の変更についてもその都度職員への周知を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者様の出来る事、やりたい事が継続して出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行後外出・外食は出来ていないが、今後は感染状況に注意しながら行っていく。またご家族様に協力して頂けるようであれば外泊等の支援も行っていきたい。	天気の良い日には散歩に出ています。また、ウッドデッキや玄関の掃除を職員と一緒にしています。ウッドデッキでは、植物の水やりや、外気浴・日光浴も出来ます。今後外食や外泊なども再開して行く予定です。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心の為、少額の所持金であれば御家族様と相談し持つておけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際は電話をかけれるよう支援しており、電話をかけるところまで職員が支援を行うケースもある。また希望者には年賀状作成の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付け作成、掲示を行っている。作成時は入居者様に手伝って頂いたりしている。また習字クラブの作品の掲示も行っている。	見当識障害への対策として、日付やトイレ、居室などの場所がわかりやすく表示されています。手すり代わりになるように、ソファ等の家具がさりげなく配置されています。エアコンの風が直接当たらないような気遣いもあります。ウッドデッキには、入居者が育てている植物がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し、どなたでも利用できつろげるスペースを確保している。ユニット間のデッキにもベンチを設置し、ユニット間で交流を持てるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れ親しんだ家具や、思い出のある写真等を持って来て頂く事で、一人でくつろげる空間の環境整備を行っている。	居室では、入居者の様々な写真や手作業で作ったものや、毎日新聞を見て書いているノート等に囲まれて、満足そうな入居者の笑顔が見られました。居心地良く過ごせている様子が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を迷われる入居者様には目印をしたり、トイレにも使用方法をわかりやすく貼り紙をするなど工夫をしている。動線を確保し、車椅子や歩行器でも通りやすい配置になるようにしている。		